

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570101925		
法人名	有限会社 高木ライフ企画		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	宮崎県宮崎市鶴島3丁目50番地		
自己評価作成日	令和6年11月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内
訪問調査日	令和7年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その方々に合わせながらできる部分を維持できるように日頃の支援に励んでいます。
今の利用者様の雰囲気はとても穏やかな方々が多く、雰囲気はとても良い状況です

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは宮崎市中央部の住宅地の一角に位置しており、2階部分が居住空間となっている。日当たりや見晴らしが良く、居心地の良さが感じられる。また、自治会に加入し、防災訓練に入居者も参加するなど地域との関係づくりを大切にしている。食事はホームの台所で専任の職員が食材を見ながら入居者と相談し決め、入居者もお手伝い出来る方はテーブル拭きや食器洗いをするなど「生活」の視点を大切にした支援を行っている。医療面では系列病院や訪問看護師との連携が図られ、連絡・相談が行いやすい関係性が出来ている。職員は入居者に寄り添い、それぞれの思いを大切にした支援につなげるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前、職員間で話し合い理念を作成したが現職員間では理念の作成までは至らない	理念は地域との関わりや入居者の尊厳を大切にしたい内容で作成され、職員が見やすい場所に掲示している。しかし、作成から数年が経過し、職員の入れ替わりもあったため十分な理念の共有には繋がっていない。	職員全員で理念に関しての話し合いを持ち、自分たちの言葉で支援に対する方向性を共有し、具体的な実践につながる事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には交流はしていないが、以前傾聴ボランティアで見えていた方々が新聞で作って下さった、ゴミ袋を月2、3回持ってきてくださっている。	自治会に加入し、地区の防災訓練に参加している。また、近くの神社のお祭りや花火大会は入居者の楽しみでもある。地域包括支援センター主催のオレンジカフェが行われ、地域との繋がりの場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今は生かすことができない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者のサービスの実際の報告は行っているがサービス向上までには至らない	運営推進会議では、入居者の日々の状況や身体拘束、事故発生状況等の丁寧な報告がされている。それにより委員からの意見や提案等も出され、実践に取り入れる事もみられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことは電話で教えて頂いたり、できる事は協力できるようにしている	市担当者とは身体拘束につながるセンサー使用に関してや、コロナ対応の物品に対しての問い合わせなどを行っている。不明な点に関して随時相談を行うことで協力関係の構築につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、3か月に1回の拘束委員会を運営推進会議で行いながら、拘束しないケアを心がけている	研修はインターネット視聴やオンライン研修が主であり、内容をミーティングで報告し、職員間で共有している。スピーチロックに関しての職員間の意識を高めるために言葉遣いの自己評価を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の勉強会を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の事は理解できているが、今現在は活用の必要がない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し理解して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に要望を尋ねる等の時間は設けるようにしている	家族が面会に来られた時に入居者の状況報告を行い、意見や要望を聴くようにしている。オレンジカフェに参加することを報告すると、「良いことですね」と言われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	できるだけ聞き、働きやすいように努めている	ミーティングや引き継ぎ時に職員からの意見や提案を聞いている。入浴の回数や時間に関する提案、行事食などへの意見が出されている。また、管理者は業務中での職員との会話を通して、意見聴取に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定時に帰れるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表の変更があり、今は地盤を固められている所である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	11月から、小戸・橘地域包括支援センターの企画により、オレンジカフェに参加している。同業者も多数見えているので交流の機会になる可能性は高い		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを考えながら関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係を築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今現在、不安に思っている事を聞き出せるように努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	場面場面で異なるかもしれない		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の事をよくご存じなのは家族なので分からない時は、聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人から情報を聞きながら、関係性ができるだけ途切れないように努めている	面会に関しては感染症予防の観点から玄関での対応となっている。電話対応は入居者の聞き取りの関係で職員が仲介しながら交流を持つ事もある。馴染みのある公園などに花見にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士は皆さん仲が良い関係である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その家族の事情で異なるが相談があった時は支援するようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる事への支援は行うようにしている	入居時に家族からこれまでの生活の仕方などを可能な範囲で伝えてもらっている。また、生活の中で出された入居者の「歩きたい」「お手伝いしたい」思いを大切に、その時の状態に応じた支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を頂き、把握できない場合は、家族に尋ねたりしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜間時の状況。朝のバイタル・排泄状況を引き継ぎながら把握するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態を把握しながら、家族に伝え要望などを交えた計画等を作成している	本人、家族の要望、また記録や職員からの情報を基に、日々の状況を確認しながら、介護計画を作成している。本人の望む事を少しでも可能にすることをめざした計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ヒヤリ・ハットなどを提示したり、しっかり引き継ぎを行い、情報共有を行いながら見直しを行うようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況を踏まえ臨機応変にできるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加できる時は、参加するようにしている。(小戸神社のお祭り、市の花火大会等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との繋がりが薄い利用者には、施設のかかりつけ医師を紹介している	入居時にかかりつけ医の確認を行っている。現在は全員ホームの協力医が主治医となっている。定期的な受診や専門医への受診も職員が同行し、情報提供が行われている。訪問看護師との連携もとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいた点や心配な点は相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人様の施設での生活レベル等を情報提供している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に紙面にて今思われていることを残して頂くようにしている	看取りは主治医、訪問看護師との連携のもと、本人、家族の意向を確認しながら実施している。入居者の状況により、対応が難しい場合などは家族や関係者との話し合いを行いながら検討をするようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練は、行っていないがすぐに訪看に連絡するようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員や利用者と災害時の事を話してはいるが全職員が身につけるまでは至らない	防災訓練、設備点検、耐震化、備蓄品の確保等行われている。住居が2階であるため階段に昇降機があり、避難用には外階段が設置されている。しかし、歩行が不安定な入居者への避難対応に困難さが伺える。	2階から1階への避難時は、階段での避難になるため、入居者が安全に避難できるような避難用具の設置や歩行が出来ない方への具体的な避難方法を検討し、訓練に繋げて頂きたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を尊重しながらケアに当たるようにしている	管理者は職員の言葉かけや対応の仕方できになる時には、直接指導を行っている。また、言葉遣いの自己評価を実施することで、自身の振り返りに繋げられるようにしている。同性介護を希望する場合には対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉に気を付けながらできるだけ自己決定ができるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必ずお声を掛け反応を見ながらその人に合わせるように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は、髪の毛の乱れもある為、ご自分できかす事ができる方は、櫛をお渡ししといて頂くようにしている。また入浴時には、一緒に服を選んで頂いたり、好みの物を着用できるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にできる方にテーブル拭きをお願いしたり、食器洗いのお手伝いをお願いしたりしている。またお盆拭きもお願いしている	食事担当の職員が専任で調理に当たっている。あらかじめ購入されている食材をみながら、入居者とともに献立を決めている。行事食でのテイクアウトのお寿司や手作りのおやつ作りに入居者は楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人に合わせ食事の形態に配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にお声を掛け口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを見ながらお声を掛けるようにしている。尿意・便意がある方は、表情や行動を見ながらトイレを案内するよう心がけている	日中はトイレでの排泄を基本とし、チェック表や本人の動きをみながら適宜、誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを使用する方もいる。入居者が自分で出来ることに関しては見守りながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ1日に1回は体操を取り入れ、体を動かすように取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけゆっくりと入って頂けるように配慮している	週2回の入浴を基本としているが、体調などによる入浴日の変更にも柔軟に対応している。シャンプーやボディソープは個々の好みで準備している。冬にはゆず湯やミカンの皮を干して浴槽に入れ楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人に合わせてながら眠られる時間に配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	皆さんが使用されている薬の副作用については、その都度調べるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力を活かしながら生活して頂けるように心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	オレンジカフェに外出できる方は行って頂いている	ドライブで花見(さくら、コスモス、ひまわり)に出かけたり、近所の神社に散歩に行ったりしている。日常的にベランダが広く、日当たりも良いため日向ぼっこが可能である。オレンジカフェが定期的開催されるようになったこともあり、参加を楽しみにされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は、買いものにお連れする事がない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり要望に応じながら行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の座る場所がある程度固まっているので、できるだけ変化しないようにしている	居住空間が2階であるため、日当たりや見晴らしが良く、広いベランダにも出入りがしやすくなっている。台所がすぐそばにあるため、調理の音や匂いが暖かい雰囲気となっている。食事は丸テーブルを囲んでみんなでとるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の南側に日中は、椅子を設置し、日向ぼっこができるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方の状態でも異なるが、使い慣れたものや馴染みの物を持ってきて頂くように家族と話し合ったり、利用者と相談しながら行っている。	居室は入居者の状況により弾力性のあるフロアーマットなどを敷いている。鏡台やテレビなど個人によって持ち物の特徴があり、家具やのれんなどで自分らしく飾り付けている入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆さんが安全に生活できるように努めている		